

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギべと病、乾腐病、腐敗病の防除対策について 定植前後の防除対策を徹底しましょう

近年、県内のタマネギ産地では、べと病、乾腐病、腐敗病等の発生が問題となっています。これらの病害の発生が増えるのは春期～貯蔵中ですが、発生を抑えるためには、定植前後の防除対策が重要となります。ついては、下記を参考に、対策を徹底して下さい。

記

1. ベと病対策

本圃での感染を抑えるため、**定植前(定植5日前～前日)にジャストフィットフロアブルを、定植14日後頃にオロンディスウルトラSCを散布する。**安定した効果を得るために、**薬液の量は300ℓ/10a散布する。**

なお、購入苗や作業委託の場合には、ジャストフィットフロアブルの散布は定植直後に行う。定植日から日数が経過するにつれて効果が不安定になるため、直ちに行う。

【参考データ】

表1 セル苗定植前後の殺菌剤散布によるタマネギべと病に対する防除効果(一次感染の抑制効果)

試験	試験区	薬剤散布		べと病一次感染株の発生 ^{注3)}	
		定植前 ジャストフィットフロアブル	定植14日後頃 オロンディスウルトラSC	累積発生株率	調査期間
1 ^{注1)}	薬剤散布区	2019年11月14日	11月29日	0%	2020年1～3月
	無散布区	—	—	4.2%	
2 ^{注2)}	薬剤散布区	2019年12月9日	12月24日	3.0%	2020年1～3月
	無散布区	—	—	5.8%	

注1) 七宝早生7号の健全苗を、前作でべと病が多発生した本圃に11月14日に定植。調査株数は、240株/区。農業試験研究センターが行った試験。

注2) ターザンの健全苗を、前作でべと病が多発生した本圃に12月10日に定植。調査株数は、300株/区。上場営農センターが行った試験。

注3) 試験1、2ともに、1～3月に約2日間隔で一次感染株の発生数を調査した。一次感染株は、見つけ次第、抜き取り処分した。

2 . 乾腐病対策

前年に多発生した圃場など、発生の恐れがある圃場に植え付ける場合は、セル育苗の苗は、定植前日にベンレート水和剤またはトリフミン水和剤をトレイに灌注し、地床育苗の苗は、定植直前に同薬剤を根部浸漬する（薬剤試験データは、令和元年11月18日付け病害虫対策資料第12号を参照）。



写真1 乾腐病による鱗茎の被害(茎盤部の腐敗)

① 収穫時期の腐敗 ② 貯蔵中の腐敗

3 . 腐敗病対策(細菌性病害対策)

育苗期から薬剤防除を徹底する。暗渠・明渠や高畝による排水対策を行い、発生しにくい環境づくりを行う。発病は定植後の生育初期からみられる。発病株(写真2)は周囲への伝染源となることから、速やかに抜き取り、圃場外へ持ち出し処分する。病原細菌は、害虫の食害痕、強風や農作業等によって生じた傷口から主に感染する。害虫を対象とした防除を徹底するとともに、強風雨や降雹等の前後には、腐敗病を対象とした薬剤防除を行う。



写真2 腐敗病による被害株

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5042